

退任のご挨拶

院長職を経験して ～変化するチームに関われる喜び～

栗栖 泰郎



この度、年度の途中ではありますが、2026年7月31日付で国立病院機構浜田医療センター院長を退任することになりました。北條副院長が新しいリーダーとして院長に昇任し、さらに新しいメンバーが加わり、適材適所の役割を担うことで、当院が課題の多い医療環境の中をしっかりと航海し続けていくための体制刷新です。新体制における健全な運営は、職員一人ひとりと地域の皆様が、本当に大切なことを共有し、日々考えながら選択し続けていくことによって初めてなし得ることだと思います。どうぞ、引き続き、温かいご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

私が、私よりも2代前の石黒院長と1代前の飯田院長からの依頼を受けて副院長に就任したのが2020年4月であり、この時点で院長を引き継ぐことは規定路線でした。不安と覚悟の中で2023年4月から院長を務めさせていただきましたが、就任当初は、院長としての本来の職責を模索しながらも、時間は猛スピードで流れていきました。院長として最終決定を下すには、病院運営の過程と状況を把握しておく必要がありますが、不器用な私は、適材適所に配置された当院の優秀な職員を信頼して委ねることができるようになるまでに人一倍時間を要したようです。時には心身のエネルギーが切れてしまうこともあり、北條副院長をはじめ、多くの職員の皆様にご心配とご迷惑をおかけすることになりました。ここまで支えてくださった皆様に、心より感謝申し上げます。

今は、院長職には、一外科医としてだけでは味わうことのできない豊かな喜びがあると感じています。それは、心身の健康があって初めて感じられることですが、院内外から押し寄せて来る困難な課題に、責任を持って立ち向かうことができるという喜びです。

人は皆、組織の中で生きています。個としては自分自身という組織から成り、家族、職場、地域、国、世界へと、所属する組織は次第に拡大していきます。組織とは生き物です。それぞれの組織が生きていくためには何かしら課題が生じますが、自分の所属する組織が確固たる理念を持ち、その理念の実現に向かって活性化したチームへと柔軟に変化していく過程を共に歩むことができた時、私たちは大きな喜びを味わうことができるのだと思います。その理念が社会への貢献につながるものであれば、その喜びはなおさらです。そのような素晴らしいチームに関わらせていただけたことに、心から感謝しています。

医療を取り巻く課題は厳しいものが多いありますが、今後は微力ながら他の職員と共に、地域の皆様と共に、北條新体制を支え、当院の理念である「医療を通じて『地域で生きる』を支援する」ことを継続していくことができるよう、尽力する所存です。

最後に、浜田医療センターへの、皆様からの変わらぬご支援、ご指導を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。退任の挨拶とさせていただきます。



左から 特別院長代理 栗栖 泰郎／副院長 高橋 節／院長 北條 宣政／特命副院長 木村 麗新／統括診療部長 古田 晃一郎